

22世紀の庄原の森林づくりプラン【概要】(令和3年度～令和7年度)

I 目指す姿 (22世紀の庄原の森林の到達点)



II 課題と方向性

1 転換期にある本市の森林・林業

プラン第1期は、豊かな森林資源を活かす仕組みと基盤を整えるための重要な時期

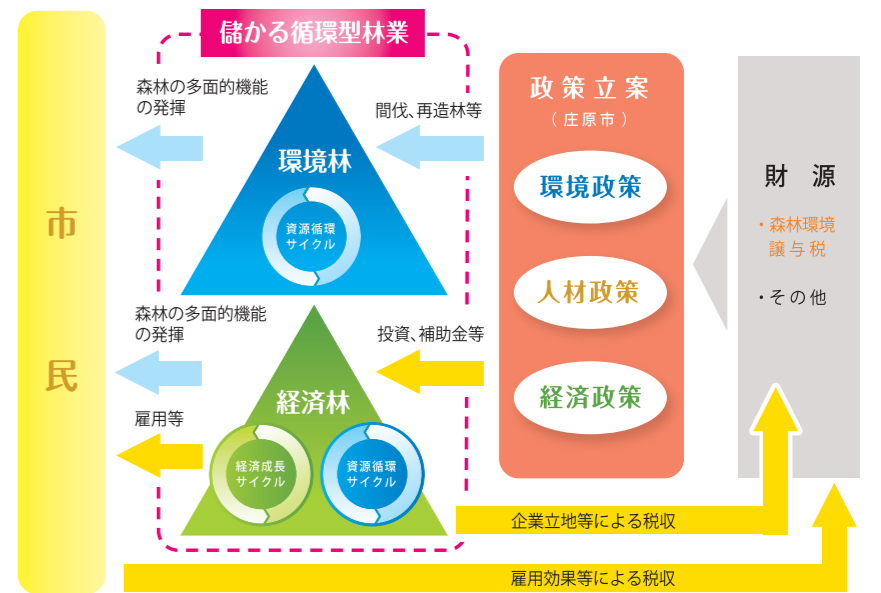


2 人工林(スギ・ヒノキ(41千ha))の課題

所有形態	主な樹種	面積	主な課題
水源林	主にヒノキ	7千ha	・県内における苗木の安定調達
県営林		7千ha	・再造林推進(集約化維持)
市等		1千ha	
私有林	スギ・ヒノキ	4千ha	・森林再生協議会の財源不足解消(下刈、路網管理、獣害対策等)
		22千ha	・林業経営意欲増進 ・境界・所有者確定 ・間伐等推進 ・再造林推進 (普通林において植林されない伐採跡地が約70ha/年増加)

III プラン(政策立案)の考え方

森林環境譲与税を財源とする政策を実行し、資源循環サイクルと経済成長サイクルを構築することで「儲かる循環型林業」を実現する。

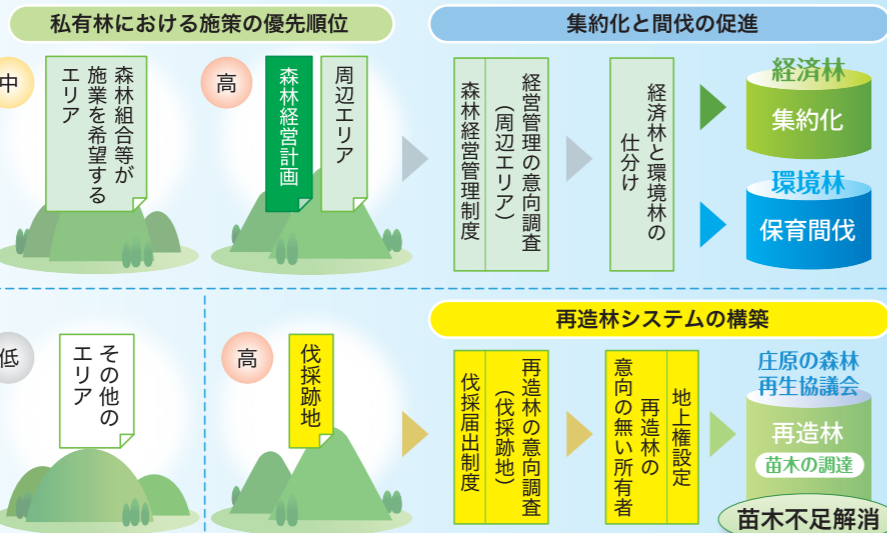


IV 対策

環境

1 戦略 <多様な森林整備と再造林システムの構築>

◆私有林において庄原市全体へ波及できる仕組みを構築



2 取組 ▶ 森林経営管理制度を活用し、森林の集約と森林の整備(間伐)を推進

区分	実施項目	内容	スケジュール(年度)					KPI
			R3	R4	R5	R6	R7	
間伐	森林の集約	所有者探索、意向調査、境界確定等	●	●	●	●	●	意向調査 6500ha/5ヶ年
	森林整備	保育間伐	●	●	●	●	●	保育間伐 250ha/5ヶ年

▶ 新たな再造林システムを構築し、再造林を推進

区分	実施項目	内容	スケジュール(年度)					KPI
			R3	R4	R5	R6	R7	
再造林	新たな再造林システムの構築	再造林システムの検討 再造林の実施	●	●	●	●	●	再造林 60ha(R7)
基盤整備	森林の維持管理 最先端技術導入等	獣害対策、作業道補修、 機械導入、ICT導入等	●	●	●	●	●	作業道補修 5000m/5ヶ年

経営

1 戦略 <庄原材活用システムの構築とブランド化>

◆森林、林業、木材産業関係者と行政が一体となって課題の解決に取組み、庄原材の活用に資する取組を促進

2 取組 ▶ 公共建築物の木質化等を契機とし、庄原材を活用した新商品の開発と原木供給体制を構築 ▶ 庄原材のブランド化に向けた戦略を策定

実施項目	内容	スケジュール(年度)					KPI
		R3	R4	R5	R6	R7	
施工業者(市民会館改修)	本体工事	●	●	●	●	●	-
製材会社 家具会社	木質内装材の製作 木製家具の製作	●	●	●	●	●	-
庄原材活用研究会	出材から運搬、製材、仕上げに至るプロセスを検証	●	●	●	●	●	商品に適した原木規格整理(R5)
	商品に適した森林資源情報の分析・整理	●	●	●	●	●	資源情報整理(R6)
	生産拠点誘致に向けた調査・研究	●	●	●	●	●	-
市	ブランド化に向けた取組	●	●	●	●	●	ブランド戦略策定 庄原材のPR

人

1 戦略 <若年層や子どもたちの働く、学ぶ機会の充実>

◆豊かな森林環境と遊休施設を有機的に結び付ける庄原モデルを構築
◆子どもたちの心に残る体験活動を継続し、次世代の人づくりを促進

2 取組 ▶ アサヒの森と研修施設を活用し、市独自のプログラムにより体験活動を実施 ▶ 既存の教育・研修機関等と連携し、林業技術を修得する機会を拡充

区分	実施項目	内容	スケジュール(年度)					KPI
			R3	R4	R5	R6	R7	
体験学習	森林・林業体験学習	体験プログラム作成 指導者育成、林間学校等	●	●	●	●	●	プログラム 実施件数20件 (R7)
技術習得	林業技術研修	教育・研修機関と連携し 研修参加等を支援	●	●	●	●	●	研修人数 10人 (R7)

集約化と再造林の仕組みを構築し、持続可能な林業を実現

経営が成り立つ
自立した林業

みらいを担う
人を育む林業

新商品開発・生産拠点誘致促進により
庄原材の活用を推進

林業体験学習拠点整備等により
みらいの担い手を育成

環境に貢献する持続可能な林業